



具体的な教材や指導方法例

具体的な教材や指導方法例

① 日本語指導カリキュラムによる日本語の基本文型指導

児童が日常生活でよく使ったり興味をひいたりする題材や語彙を選んで作成した日本語指導カリキュラムを使って、日本語の基本文型指導を行っている。

段階的な内容構成でなく、当該児童がいつ転入・編入してきても指導が可能となるように配慮した「フラットな教材配列」で、初歩と少し高度な文型・語彙が含まれていて、児童の実態に合わせて取り組んでいけるように作成されている。

※ 伊賀市立上野東小学校作成の日本語指導カリキュラム表と日本語学習指導案
P 4～27

② 漢字の習得のためのプリント

漢字の意味を理解しやすいように工夫されたプリントを作成し、指導している。

※ 伊賀市立上野東小学校作成の漢字練習用プリント（読み）P 28～38

※ 四日市市初期適応指導教室「いずみ」作成の漢字練習用プリント（書き）
P 39～62

③ 内容を精選した算数指導の取組

各学年で重点となる内容を精選した算数指導カリキュラムと算数のあゆみを作成し、学習を進めている。

※ 四日市市初期適応指導教室「いずみ」作成の算数指導カリキュラム・算数のあゆみ
P 63～70

④ 翻訳教科書やルビふり教科書の使用

本文の横へ母語の翻訳をつけたり、ひらがなやローマ字でルビを付けたりした教科書を使い指導を行っている。

⑤ リライト教材の活用

国語の教科書などを児童生徒にわかりやすくするために書き直したリライト教材を作成・活用している。リライト教材には、原文と同じ文章にルビを付け、分ち書きや音読譜*1にした全文リライトと、原文を簡単な言葉に変えた要約リライトがある。

*1 日本語の発音やリズムを視覚的にわかりやすく表記したもの。なめらかな日本語発音への橋渡しの役割があると考えられる。

⑥ 積極的な辞書の活用

積極的に辞書を活用することで、日本語の語彙を増やし、学習理解を深められるように取り組んでいる。

⑦ 教科特有の言葉の指導

教科で使用する頻度の高い言葉をその意味をしっかりと押さえて指導している。例えば、算数であれば、「たす」「ひく」「かける」「わる」「合わせる」「分ける」や、「円」「三角形」「四角形」などが教科特有の言葉である。